

国語科学習指導案
単元名「要旨を把握して発表し合おう」
教材名「身体、この遠きもの」

令和5年10月 第1学年 指導者 菊地 将史

I 単元の構想

1 単元観

思考する主体としての「私」の存在を『方法序説』の中で措定したデカルトの「我思う、故に我在り (Je pense, donc je suis)」という言葉が端緒となり、近代においては長らく「心身二元論 (物心二元論)」が支配的な位置を占めてきた。人間の理性や精神が世界の真理を明らかにし得るものとして称揚されたのに対し、身体は精神の単なる容れ物にすぎないと軽視されてきたのである。確かに、「心身二元論 (物心二元論)」は近現代の自然科学や医学の発展に大きく寄与し、人々の生活を便利で快適にした。しかし、その一方で世界規模の環境破壊を引き起こしたり、精神と身体との相関関係や身体の豊かな諸相を切り捨てたりするという問題ももたらした。二十世紀に入ると、精神と身体を対比して身体を劣位に置くという従来の在り方が反省され、身体とその価値について再考する動きが生まれてきた。今回取り上げる題材も、こうした動きの中に位置付けることができる。

本題材は、哲学者の鷺田清一が「身体」について論じた評論文である。他の物体との比較の中で、身体の異質さを浮き彫りにしている。私たちは自分の身体の一部しか直に見たり触ったりすることができない。このように極めて不完全にしか知覚できない身体は、単なる物質体ではなく「想像されるひとつの〈像〉」であると考えられる。身体がとりとめのないイメージであるがゆえに、「わたし」という存在と身体との関係性は、様々に変化し得る複雑なものとなるのである。他人が「わたし」を他ならぬ「わたし」として認識してくれる身体は、「わたし」にとって不随意で遠い存在であるのだ。

本文は哲学的な内容となっており、随所に比喩的、抽象的で難解な表現が見られる。しかし、種々の具体例が効果的に用いられているため、高校1年生が自分たちの力で文章を読み解き、読み取った内容を的確にまとめるのに好適な題材であると考えられる。また、「身体」という身近なものをテーマとしているため、生徒が「本文を読んだことのない相手 (小学校5年生) を想定し、内容を分かりやすく説明する」という単元課題に取り組む中で、日常や個々の経験に即した具体例を挙げながら、主体的に読みを深めていくことができるであろう。例えば、コロナ禍で普及したマスクに着目して、他者から顔を見られることに羞恥を感じて感染症の収束後もマスクを外せずにいる人の存在を根拠としながら、マスクが〈像〉としての無防備な素顔を覆うための道具としても機能していることを指摘する生徒も出てくると推測される。

ところで、本題材のような「身体論」は今なお大学入試の問題でも頻繁に出題されている。2023年度の東京大学の二次試験の第一問では、仮面が不可視で絶えず変転する自分の顔を固定化し、可視化する装置であることを論じた文章が出題された。また、2022年度の北海道大学の二次試験では、西洋哲学の中で視覚に対して下位に位置付けられてきた触覚の価値を再考する評論文が取り上げられている。さらに、今回の授業で扱う「身体、この遠きもの」という文章も、1999年度に名古屋大学の二次試験で出題されている。したがって、生徒は本題材を自分たちの力で読解する中で、大学入試を突破するために必須となる力 (抽象的な評論文を自分たちの力で読み解く力、「身体論」に関する基本的な知識) も身に付けることができるであろう。

以上のように、生徒が主体的に読解力 (評論文を深く読み解き、要旨を把握する力) を向上させる上で極めて有意な文章であると考えたことから、本題材を選定した。

2 研究との関わり

平成30年に告示された高等学校指導要領解説国語編においては、「生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている」、「情報化やグローバル化が進展する社会においては、多様な事象が複雑さを増し、変化の先行きを見通すことが一層難しくなっている」といった指摘がなされている。こうした予測の困難な時代や社会の中であって、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、(中略) 生涯にわたって能動的に学び続ける」力は大いに肝要であると言えよう。このような力を育むためには、教師が生徒に教える従来の指導だけでは不十分だと考えられる。生徒が自ら「見方・考え方」を働かせて思考したり、他者と対話を重ねたりしながら、自分たちの力で学びを深めていくことのできるような新しい指導が求められるだろう。こうした指導を積み重ねていくことで、生徒たちは能動的に学び続ける力を身に付け、教師による主体性の喚起すらも必要としない自立した学び手になり得ると考える。

そこで、今回は「高校国語において主体的に評論文の読解力を向上させていくことのできる生徒の

育成」を研究主題とした。本単元で扱う「身体、この遠きもの」という評論文は、難易度及び内容の面から、そうした生徒の育成における恰好の題材であると言える。

研究主題の実現に向けた手立ては、「学習課題の工夫」である。いずれの単元においても、基本的には2時間構成とする。1時間目には、班で協働しながら生徒が自分たちで本文の読解と要約作業を行う。要約の分量は百字を基本とするが、本文の長さや内容に応じて適宜調整する。生徒は本文や他者と対話しながら、自分たちの力で本文を読み解こうとする。だが、この段階ではまだ本文の表面的な読みに安住しており、完成した要約も本文の記述をつないだだけの単純なものにとどまっている。そこで、2時間目には、生徒が「読み解いた本文の内容をスライドにまとめ、本文を読んだことのない相手を想定して分かりやすく説明する」という学習課題に取り組む。分かりやすく説明するために、生徒は本文の抽象的、比喩的な表現を平易に言い換えて説明したり、身近な具体例を挙げたり、内容を整理・再構成したりしながら、主体的に読みを深めていくことができる。

本単元では、「本文を読んだことのない小学校5年生という想定の手先に向けて、本文の内容を分かりやすく説明する」という学習課題を設定した。学習課題の設定に当たっては現実に即した必要感のある課題とすることが肝要である。具体的には、想定する説明対象の設定に際し、題材の内容との関連性が明確になるようにする。なぜ、その対象に向けて本文の内容を説明する必要があるのかという点が不明瞭であると、学習の動機付けが弱まってしまうと考えられる。今回は「身体」に関する評論文であることから、身体的な変化が生まれ、自己の身体に興味や関心が生まれる「小学校5年生」を説明の対象とした。

また、生徒がその課題自体に取り組む必要性を感じられないとすれば、それは魅力のない課題となり、主体的な学びは生まれまいだろう。そのため、校種やキャリア、生徒の実態等に応じた、生徒にとって必要感のある学習課題を設定することも肝要である。研究協力校の生徒は大部分が大学への進学を目指している。その多くはいわゆる難関大学を志している。そうした生徒にとって、入試に頻出の「身体論」を扱い、実際に難関大学の二次試験において出題されたこともある本教材は、学習する必要性の感じられるものだと考えられる。さらに、「本文を読んだことのない相手に分かりやすく説明する」という学習課題についても、言い換えや例示、本文の内容の整理・再構成を通して自ら評論文を深く読み解くという実際の入試において求められる力と対応するものであることから、必要感があると言えよう。

なお、生徒による主体的な読解においては行き詰まった際に支えとなるものが必要になると考えられる。そこで、今回の研究においては上記の課題に加えて「『読解の手引』を作成し、1年を通じて改訂する」という学習課題も設定した。「読解の手引」は、生徒が主体的な読解の拠り所にできるよう、評論文の読解方法における気付きを振り返り時に蓄積したものである。

今回は以上のような「学習課題の工夫」を通して学習意欲と主体性を喚起し、生徒が教師の導きに依ることなく、自分たちの力で評論文の読みを深めることを目標とする。

3 単元の目標及び生徒の実態

| | 目 標 | 生徒の実態 |
|--------------|---|--|
| 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解することができる。(1)ア) | <ul style="list-style-type: none"> 言葉が認識や思考と結び付いていることを、表面的には理解できている。 人間の認識(事物の内容を捉え、考えたことを基に、本質や意義を理解すること)や思考(認識の結果得られた情報を精査し、構造化し、論理を構築していくこと)を支えるという言葉の働きについて、具体的に理解することができていない。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。(C(1)ア) | <ul style="list-style-type: none"> 文章の内容については、比較的読み取ることができる。 構成や論理の展開などを意識して読むことが十分にできていない。 叙述から離れてしまう生徒がいる。 表面的に内容を読み取ることができても、本文を深く読み解き、要旨を把握し得ない生徒がいる。 |

| | | |
|---------------------|---|---|
| <p>学びに向かう力、人間性等</p> | <ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> 言葉を通して他者や社会に関わろうとする姿勢は見られる。 言葉によって自己の考えを形成したり、新しい考えを生み出したりすること、また言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることなどの、言葉のもつ価値についての認識が十分ではない。 文章を読むことに対する抵抗感や苦手意識を抱いている生徒がいる。 |
|---------------------|---|---|

4 評価規準

| | |
|----------------------|--|
| <p>知識・技能</p> | <p>①言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。(1)ア)</p> |
| <p>思考・判断・表現</p> | <p>①「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(C1)ア)</p> |
| <p>主体的に学習に取り組む態度</p> | <p>①学習の見通しをもちながら発表資料を作成しつつ、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉えて粘り強く要旨を把握しようとするとともに、言葉の働きについての理解を深めようとしている。</p> |

5 指導及び評価、ICT活用の計画(全2時間:本時第2時)

| 過程 | 時間 | <p>■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項</p> | 知 | 思 | 態 | <p>◆評価項目<方法(観点)> ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価</p> |
|--|-----|---|---|---|---|---|
| つかむ・追究する | 1 | <p>■生徒が自分たちの力で主体的に評論文を読み解き、要旨を把握できるようにする。</p> <p>□生徒が自分たちの力で本文の読解と百字要約を行う。班ごとに協働して読解と百字要約を行い、他班との意見交流を経た上で、最終的には個人の要約(ワークシート)を完成させ、提出する。班の要約作業ではGoogleドキュメントを活用する(★)。</p> | ○ | | ● | <p>◆主体的に本文を読み解く中で、言葉の働きについての見方、考え方を深めている。</p> <p><観察(知①)></p> <p>◆学習の見通しをもちながら要約に取り組み、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉えて粘り強く要旨を把握しようとしている。</p> <p><観察・ワークシート(態①)></p> |
| <p>[単元の学習課題] 「身体、この遠きもの」を読んだことのない人に向けて、本文の内容を分かりやすく説明しよう。</p> | | | | | | |
| 追究する・まとめる | 2本時 | <p>■本文を読んだことのない相手(=小学校5年生)を想定し、読み解いた内容について分かりやすく説明することで、本文の読みを深められるようにする。</p> <p>□班ごとに、本文を読んだことのない小学校5年生に伝わるような分かりやすい説明を考えてGoogleスライドにまとめ、他班の人に向けて発表し合う(★)。</p> | | ○ | | <p>◆本文を読んだことのない小学校5年生を想定し、読み解いた内容に基づきながら分かりやすく説明しようとする中で、本文の読みを深めている。</p> <p><観察・Googleスライド(思①)></p> |
| <p>[本時のめあて] 「『身体、この遠きもの』を読んだことのない小学校5年生」という想定の人に向けて、本文の内容を分かりやすく説明しよう。</p> | | | | | | |

II 第2時の学習

- 1 ねらい 「『身体、この遠きもの』を読んだことがない小学校5年生」という想定の手相手に向けて、内容を分かりやすく説明するという活動を通じ、評論文を深く読み込む読解力を身に付けられるようにする。

2 展開

| <p>主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p> | <p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p> |
|--|---|
| <p>1 本時のめあてと課題を共有する。（導入5分）</p> <p>S：今日は、本文を読んだことのない小学校5年生に向けて、自分たちが読み取った内容を分かりやすく説明すればよいのだな。分かりやすくするためには、本文の表面的な読み取りや、文中の表現をそのまま用いた説明では不十分かもしれないな。本文を読み直して深く理解し、説明を工夫する必要があるそうぞ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて></p> <p>「『身体、この遠きもの』を読んだことのない小学校5年生」という想定の手相手に向けて、本文の内容を分かりやすく説明しよう。</p> </div> | <p>○生徒の主体的な読解や思考、活動の時間をできる限り多く確保できるよう、本時のめあてと課題の共有はスライドを活用しながら、短時間で済ませる。</p> <p>◎生徒が抽象的な表現を平易な表現に言い換えたり、自ら具体例を挙げたり、本文の内容を再構成したりすることにより、自分たちで評論文の読みを深められるように、「本文を読んだことのない想定上の相手に内容を分かりやすく説明する」という課題を設定し、提示する。また、説明対象の年齢の設定も工夫する。</p> <p>◎題材の内容と説明対象との関連性（本文は身体について論じた文章であるから、自己の容貌や身体に興味を抱き始める小学校5年生を説明の対象とするということ）を提示することにより、生徒が説明対象に必然性を感じて、主体的に課題に取り組めるようにする。</p> |
| <p>2 本文を読んだことのない小学校5年生に向けて、内容を分かりやすく説明するため、班ごとにスライドを作成する（Googleスライド★）。（展開①35分）</p> <p>S：小学校5年生に向けて説明するのだから、「乖離」や「可塑的」といった難解な言葉は文脈に即しながら平易な表現に置き換える必要があるそうぞ。「乖離」は「自分と身体とがかけ離れていて、身体が言うことを聞かず、自分の物ではないように感じる」と説明すれば分かりやすいな。「可塑的」は、辞書的には「外力による変形がそのまま残る性質」という意味だけど、このままでは分かりにくいな。「自分と身体との関係がいろいろと変化する」と言えば、小学校5年生にも伝わるかもしれないぞ。</p> <p>S：「身体は・・・透明なもの」や「身体は、その皮膚を超えて伸びたり縮んだりする」、「身体はまた、時間的な現象でもある」、「〈像〉としてのとりとめのない身体」という比喩的・抽象的な表現は、平易な言葉で分かりやすく説明し直す必要があるな。身近な具体例を挙げるのも、有効な方法かもしれないぞ。</p> <p>S：本文の表現を順番どおりにつないだだけの表面的な説明だと、読んだことのない人には分かりにくいかもしれないな。もう一度本文における筆者の主張と、その展開の仕方、意味段落同士のつながりを把握し直してみよう。</p> | <p>○困難に直面した際、生徒が自分たちの力で解決を図れるようにするため、他班との交流を自由とする。</p> <p>○生徒たちの主体的な読解や思考、活動を導くために、教師は基本的に生徒たちの様子を見守る。</p> <p>○作業の進んでいない生徒には、説明する相手への印象を問いかけたり、本文中のどの言葉が難解であってどのように説明すれば伝わりそうであるのかを尋ねたりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目</p> <p>本文を読んだことのない相手を想定し、読み解いた内容に基づきながら分かりやすく説明しようとする中で、本文の読みを深めている。<観察・Googleスライド（思①）></p> </div> |

| | |
|---|--|
| <p>場合によっては、本文の内容を再構成するのがよいかもしれない。</p> | |
| <p>3 班を再編成し、作成したスライドを使用しながら、他班の人に向けて発表し合う（発表と質疑・助言を併せて一人につき2分間で実施する）。その後、最初の班に戻ってスライドの改善を行う（Google スライド★）。（展開②15分）</p> <p>S：α班では「可塑的」について、「自分という存在と自分の身体との関係は、いろいろに変化するものだ」と説明していたな。抽象的な表現は文脈に即して平易に言い換えた方が分かりやすいな。</p> <p>S：自分では制御できない不可視で無防備な顔への恐怖の例として、「マスク」を外すことへの抵抗感を挙げていたβ班の発表は、分かりやすかったな。自転車に乗る時には意識されず自由に動かせる足が、筋肉痛の時には自分の物ではないように感じられるという例も、小学校5年生の日常に即していてよかったぞ。</p> <p>S：γ班では、身体が完全には見たり触ったりできない「イメージ」であることを指摘した上で、その結果として生じてくる自己と身体との複雑な関係性を具体的に説明していたな。本文の内容を再構成し、結論から提示すると分かりやすい説明になるのだな。</p> | <p>○生徒が自分たちの力で読みを修正したり深めたりしながら、スライドや説明を改善することができるように、教師は見守りに徹する。</p> |
| <p>4 本時・本単元の学習を振り返り、次單元への見通しをもつ（Google フォーム★）。（終末5分）</p> <p>S：抽象的な評論文では、具体例に着目することで理解を深めることができるのだな。</p> <p>S：「可塑的」や「観念」、「現象」など、評論文のキーワードは意味・用法を覚えておく必要があるそうぞ。</p> <p>S：今回の単元では、評論文を深く読み解く新たな視点を獲得できたな。評論文を深く読むためには、抽象的・比喩的な表現を分かりやすく言い換えたり、自分で身近な具体例を挙げてみたり、本文の内容を整理して組み立て直したりすることが大切なのだ。次回以降の評論文の読解でも、意識していこう。</p> | <p>○個々の生徒に単元の学習を振り返らせ、自分たちの力で評論文を読解できたことに思い至らせ、次時以降の主体的な取組につなげていく。</p> |

3 板書計画

| | | |
|---|---|---|
| <p>単元課題</p> <p>「身体、この遠きもの」を読んだことのない人に向けて、本文の内容を分かりやすく説明しよう。</p> <p>↓</p> <p>めあて</p> <p>評論文を深く読み込む読解力を身に付ける。</p> | <p>説明する想定上の相手＝小学校5年生</p> <p>〔設定した理由〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体的な変化が生じ、自己の身体についての関心が高まる時期であるから。 異性を意識して、自らの容貌を気にかけ始める時期であるから。 | <p>【本時の流れ】</p> <p>①課題・めあての共有 ↓ ②班ごとにGoogleスライドで発表資料を作成〔35分間〕 ↓ ③他班の人に向けた発表・助言 ↓ ④スライド・説明の改善、振り返り</p> |
|---|---|---|

Ⅲ 備考

本指導致案に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

Google、Google ドキュメント、Google スライド、Google フォームは、Google LLC の商標又は商標登録です。

なお、本文中には™マーク、®マークは明記していません。